

# One Purpose

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信  
DOSHISHA UNIVERSITY



197

2019 April

特集

## 同志社大学 「EUキャンパス プログラム」始動！

同志社人訪問

株式会社文藝春秋 代表取締役社長  
中部 嘉人さんに聞く



COVER INTERVIEW  
My Purpose 挑戦する人

My Purpose 挑戦する人  
を動画で CHECK!



2

特集

## 同志社大学 「EUキャンパスプログラム」始動!



### 7 Seminar ～ゼミ探訪 学びの時間～

政策学部 岡本 由美子ゼミ  
グローバル・コミュニケーション学部 内田 尚孝ゼミ

### 9 同志社の研究は今

スポーツ傷害予防研究センター  
センター長 北條 達也(スポーツ健康科学部教授)



### 11 2019年度予算編成方針について

### 12 同志社大学 2025 ALL DOSHISHA募金のご案内

### 13 INFORMATION

新任教員紹介・退職教員／同志社大学 新島塾2019年春開校／  
同志社大学公式 SNS 一覧／本学教員の執筆図書紹介

### 18 INTERVIEW ～同志社人訪問～

株式会社文藝春秋 代表取締役社長  
中部 嘉人さんに聞く



### 21 My Job, My Life ～私と「仕事」～

中谷 結花さん(2018年 心理学研究科修了)  
梅枝 駿さん(2014年 商学部卒業)

### 23 COVER INTERVIEW My Purpose ～挑戦する人～

名東 悠沙さん(商学部3年次生)



#### お知らせ

「One Purpose」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。2018年度より4月・7月・11月の年3回の発行となりました。同志社大学の最新情報は随時ホームページでお知らせしております。ぜひご覧ください。▶<https://www.doshisha.ac.jp/>

※今号に登場する学生の年次などは取材時のものです

特集

# 同志社大学 「EUキャンパスプログラム」 始動!



同志社大学の教育理念の一つである「国際主義」の伸展と深化を図り、同志社創立 150 周年に向けて世界を牽引する教育・研究体制を構築するために、2017 年度に本学初の海外キャンパス「同志社大学チュービンゲン EU キャンパス (以下、EU キャンパス)」をドイツ・チュービンゲン大学内に開設。同志社大学とドイツやヨーロッパ諸国をつなぐ新拠点を目指して両大学の学生・教員による学術交流などを積極的に推進しています。全学共通教養教育科目で構成する「EU キャンパスプログラム」での学生派遣もその一つです。



# 特集座談会

片山 真由さん

グローバル地域文化学部2年次生  
チュービンゲン大学「International  
& European Studies」参加学生

安原 彰子さん

心理学部2年次生  
「EU キャンパスプログラム」  
参加予定学生

レオン・  
ヴィゲンハウザーさん  
チュービンゲン大学  
同志社日本研究センター留学生

種市 麻理

国際課職員・  
EU キャンパス駐在員

和田 喜彦

経済学部教授・  
EU キャンパス支援室長

## 新島襄の理想を具現化する 本学初の海外キャンパス

—「EU キャンパス」開設の目的を聞かせてください。

**和田** 新島襄は世界に目を向け、そこから学ぶことの大切さを痛感し、国際的に評価される日本人を育成したいと考えました。その教育理念の実質化を目指し、2017年度に本学初の海外キャンパスとしてドイツのチュービンゲン大学内に開設したのが「同志社大学チュービンゲンEU キャンパス」です。新島襄が欧州の教育機関の視察後、筆頭にあげたのもドイツでした。1477年に創立されたチュービンゲン大学はその長い歴史の中で数多くの著名人を世に送り出し、ノーベル賞受賞者も8人輩出しています。建学の理念に「革新性」、「学際性」、「国際性」を掲げるチュービンゲン大学との学術交流をさらに推進し、同志社大学とヨーロッパ諸国を結ぶ新拠点にしたいと考えています。

**種市** 同志社大学は1990年にチュービンゲン大学と学術交流協定を締結し、1993年には「チュービンゲン大学同志



社日本研究センター」が今出川校地内に設立されました。以来、四半世紀以上にわたってチュービンゲン大学の学生が本センターに留学しています。このような実績に基づく信頼関係の構築が「同志社大学チュービンゲンEU キャンパス」開設につながったと思っています。私は駐在員として今回の「EU キャンパスプログラム」に参加する学生たちを現地でサポートする予定です。私自身も大学時代にチェコに1年間交換留学し、貴重な経験を得ることができました。プログラ

ムの参加学生が爽り多き日々を送られることを心から願っています。

一どのような意図で今回の留学プログラムに参加されることを決めたのですか。

**安原** 1年次生の時にドイツ語を選択し、次第に興味が高まり、大好きになりました。そこで2年次生でも続けてドイツ語を学ぶことにしたのですが、クラスの誰もが非常に流暢なので驚きました。クラスメイトには、ドイツ人とのハーフで7歳までドイツに住んでいた学生、高校時代に既にドイツ語を勉強していた学生、母語でドイツ語を学んでいた中国人留学生、アメリカでドイツ語を学習していた帰国子女の学生がいたので、その差は歴然でした。短期間で同じレベルに達し、さらに超えるためには、留学しかない判断し、「EU キャンパスプログラム」に参加しました。もちろん、論文などをドイツ語で読めれば、心理学の研究に役立ち、カウンセリングの幅も広がるという思いもありました。

**片山** 学部を選ぶ段階では本格的に英語が学べるのが前提でした。将来、どのような分野に進むとしても、英語ができれば絶対に役立つと考えていたからで



す。しかし、グローバル地域文化学部は地域の歴史、文化、課題などをグローバルな視点から考察するのが目的であり、言語の運用能力は手段なのです。私はヨーロッパコースに属していますのでチュービンゲン大学で実施される「International & European Studies」プログラムがモニター学生を募集しているのを知り、「これは絶対に貴重な経験になる！」と考えて応募しました。まだ、将来の進路は具体的には決めていませんが、国際交流の架け橋になれるような仕事に就ければと考えています。

**ヴィゲンハウザー** 私は本学にあるチュービンゲン大学同志社日本研究センターで学んでいます。日本語だけでなく日本の歴史や文化などに関するゼミもあり、凄く勉強になっています。センターの行事で裏千家の茶道など、色々な体験もできました。個人では見学が難しい場所でもグループなら許可が得られるケースが多いのでグループ留学もメリットが多いと思います。日本の歴史や文化に関心を抱いたのは少年の頃です。映画で観たサムライの世界に魅了されたのがきっかけでした。中・高校時代にはドイツで武道にも取り組みました。チュービンゲン大学に進学したのも、この留学プログラムがあったからです。4月からは京都の伝統文化を体感できる京町家スタイルのホテルでインターンシップをする予定です。卒業論文は明治維新を牽引した島津氏（薩摩藩）をテーマにしたいと考えています。卒業後のことは未定ですが、外交官の仕事に魅力を感じています。

## この機会に真の国際人への新たな一歩を踏み出して欲しい

—今回実施の2つのプログラムの趣旨を教えてください。

**和田** 「EUキャンパスプログラム」の目的はドイツ語運用能力を高め、ドイツを含むヨーロッパの文化や社会、異なる価値観への理解を深めることによって真の国際人への新たな一歩を踏み出してもらうことです。勉学に打ち込みながら様々な交流も積極的に体験して欲しいと思います。歴史を誇る学術都市チュービンゲンの街を散策し、週末にはフランスなどの隣国などにも足を延ばして見聞を広め、数多くの出会いを体験していただきたい。それが、将来への貴重な糧になるからです。「International & European Studies」プログラムは、チュービンゲン大学が提供する英語によるプログラムですが、今後のEUキャンパスにおける教育活動の新たな展開を検討するために、モニター学生を募りました。本学だけのプログラムではなく、世界各国から学生が参加しています。モニターとして体験された片山さんの感想を聞かせてください。

**片山** チュービンゲン、ベルリン、フランクフルト、シュトゥットガルトなど各地を巡りました。プログラムの期間は1月2日から26日まででしたが、何倍にも感じる非常に充実した内容でした。誰もが直ぐに打ち解け、会話も弾み、本当に楽しかったです。共通言語は英語です。関心を抱いているEUのシステムについても、しっかりと学びました。このプログラムに参加する前に派遣留学でオスロ大学にも行っています。北欧とドイツの



福祉を比較研究したかったからです。卒業論文に向けた資料も豊富に得ることができました。

**安原** 私は4月中旬に出発する予定ですが、日増しに期待が高まっています。心理学は奥が深く、しかも幅広い学問であり、経験が非常に役立つと考えています。ドイツに行くことによって新たな発見が得られ、日本と比較もできる。具体的な研究テーマは、まだ確定していませんが、自身の学びの引き出しを経験や資料で一杯にしたい。いま、フランスでも最高峰のパティシエとして名高い日本人のお店でアルバイトしているので、この機会にパリにあるショップも訪問したいと思っています。多くの方々との交流も深めたいですね。

**ヴィゲンハウザー** チュービンゲンは長い歴史と文化が映える美しい街です。街並みも、朝夕の景色も、素晴らしい。他の大学のようにキャンパスが区切られておらず、街全体が学びの地といった感じです。人々も和やかで優しい。散策されれば、心に残る出会いがあると思います。





## 素晴らしい環境の中で 学びを深め、数多くの出会いを

—「EU キャンパスプログラム」の要点  
を聞かせてください。

**和田** 「セメスタープログラム・ドイツ語 I、II」は語学研修プログラムです。各自が事前に調べたドイツの社会や文化についてグループセッションを行います。「Intercultural Studies」はチュービンゲン大学の学生との共修科目であり、コミュニケーションを深めながら異なる価値観や文化などを互いに理解するのが目的です。「EU キャンパス特別講義」では、2019 年度は本学の建学の精神「良心教育」をテーマに取り上げます。本学で実施している「良心学」の講義の延長線上で、新島襄の崇高な精神をドイツ

という文脈の中で発展させていきたいと思っています。また、ドイツの高い倫理観も学んで欲しい。これらを交響させ、結実させながら、より良い世界の在り方を探究していきたいのです。

—ドイツの視点からグローバル社会をどのように捉えておられますか。

**ヴィゲンハウザー** ドイツはEU 加盟国であり、ヨーロッパの中心地に位置しており、長きにわたって数多くの移民を受け入れてきました。外国籍の人口も多い。私自身の実感としても、初対面の人はドイツ人なのかどうか見た目では分かりません。典型的なグローバル社会ですね。私はEU の考え方を積極的に支持しています。もちろん各国が歴史の中で培ってきたアイデンティティや独自の文化は堅持すべきですが、地球という俯瞰的な視点に立ち、世界の人々が国境を超



えて結ばれることを願っています。

—これからプログラムに参加される学生へのメッセージをお願いします。

**種市** 今回が初回となる「EU キャンパスプログラム」には、10 人の学生が参加してくれました。座談会の中で「言語の運用能力は手段」という指摘がありましたが、私もそのように捉えています。語学力は不可欠ですが、あくまでも大切なツールです。各国や各地の歴史、文化、社会への理解を深め、次代の世界に貢献できるのが真の国際人だと考えています。チュービンゲンという素晴らしい環境の中で積極的に学び、多彩な出会いを求め、貴重な気づきを得ていただきたい。そして、その成果を後輩の方々に受け継いでいただければと願っています。私も駐在員としてできる限りのサポートをしたいと思っています。

**和田** 私も留学を経験していますが、留学は言葉の壁にぶつかることもあり、新しい環境に慣れるまでに時間もかかる。でも、若い時は何でも乗り越えられる。その経験が必ず大きな自信になります。現地での多彩な出会いは生涯の財産です。帰国後はチュービンゲン大学同志社日本研究センターの留学生とも交流を深めて欲しい。留学中に得た知識や人的ネットワークを多くの学生に還元してください。素晴らしい成果を期待しています。

## 機能を集結したアジア研究と交流の新拠点を構築 新学舎に本学のEUキャンパス(4部屋)が誕生

チュービンゲン大学では専門図書館を併設したアジア研究・交流の拠点を構築するために、旧眼科病棟の建物の中に同研究所の機能を集結する計画を策定。増改築工事は2022~2023年に完成予定です。本学のEUキャンパスは新校舎1階に4つの部屋を提供していただく予定です。



チュービンゲンの街並み



新学舎(予定)



チュービンゲン大学

EU キャンパス URL / <https://www.doshisha.ac.jp/international/organization/eu/campus.html>  
国際センター Facebook / <https://www.facebook.com/DoshishaU.IC/>

## 教員交換協定締結に係る調印式



Photo: University of Tübingen / Verena Müller

昨年 10 月下旬に松岡敬学長がチュービンゲン大学を訪問し、Bernd Engler 学長をはじめとする大学関係者と懇談。その後、2019 年度からの教員交換派遣の協定を締結しました。本協定に基づき、2019 年 8 月よりビジネス研究科 飯塚まり教授が、2019 年 11 月には法学部・法学研究科 瀬領真悟教授がそれぞれチュービンゲン大学へ派遣される予定です。

## チュービンゲン大学における国際シンポジウム 『高齢化社会への挑戦:日本、ドイツ、ヨーロッパの 比較的な視点からの学際的アプローチ』を共同開催



2019 年 2 月 27 日、28 日にチュービンゲン大学にて、『高齢化社会への挑戦:日本、ドイツ、ヨーロッパの比較的な視点からの学際的アプローチ』(Challenging for Aging Societies : Interdisciplinary Approaches in Comparative Japanese, German and European Perspectives) が開催されました。2018 年 2 月 23 日に同志社大学で開催した同志社大学チュービンゲン EU キャンパス開設記念シンポジウムに続き行った今回は、「高齢化社会」をテーマに、医学、脳科学、臨床心理学、細胞学、社会科学、社会福祉学、公衆衛生学、歴史学など幅広い観点で、チュービンゲン大学の研究者 9 人と同志社大学の研究者 4 人による研究発表がなされました。

また、シンポジウム終了後に、EU キャンパスの運営協力に関する覚書が両大学学長名で調印されました。今後、チュービンゲン大学と同志社大学が、EU キャンパスを軸に、研究交流をはじめ様々な分野でのさらなる連携・協力を深めていくことが期待されます。





## フィールドワークを最重視し そこから解決策を見出す 重要なのは現地の人々の要望を 的確に把握すること



**岡** 本由美子教授は専門分野である国際経済と国際開発の観点から持続可能なグローバル社会の在り方を探究している。主眼を置いているのは発展途上国が直面する現状の課題の解決策を見出し、その伸展を支援することである。



「ゼミ生には問題解決のヒントは身近なところにあると教えています。その事例を糸口に地球的規模での課題を的確に認識し、グローバルな視点から最善の施策を熟考して欲しいのです。最も重要なのは現地の人々の要望を的確に把握すること。机上の空論では意味がないからです。そのためにゼミでは徹底したフィールドワークを最重視しています」。具体的には3年次の4月に国内フィールドワークとして徳島県勝浦郡上勝町の「葉っぱビジネス」を視察。過疎化と高齢化が進んだ山間地域の小規模自治体が資源を生かした商品開発(料理を彩るツマモノ)で地域活性化に大成功した事例に「持続可能な開発」のヒントを探る。続けて9月にはアフリカのウガンダで海外フィールドワークを実施。高等教育機関として名高いマケレレ大学での研究交流会、複数の開発プロジェクト現場での問題発見解決型学習(PBL)の体験、特に国際協力機構(JICA)が行っている北部ウガンダ生計向上支援プロジェクトでは対象農家の

人々との対話も試みている。取材当日は4年次生対象の「卒業研究演習Ⅱ」。1月の卒業論文提出に関する詳細な説明の後、ゼミ生が2人1組になって最終確認に没頭。岡本教授への質問も次々に発せられ、教室は最後まで熱気に包まれていた。卒業論文で何よりも大切なのは独自の視点で卓越した新たな「問い」を見出すことだと岡本教授は指摘する。

**ゼ** ミ生の大野真以さんはオープンキャンパス時に岡本教授の研究内容や支援活動に深い感銘を受け、岡本ゼミで学ぶために同志社大学を選んだ。受験に失敗した場合は再挑戦すると決めていた。卒業論文のテーマは「古着は持続可能な開発に役立つのか」。現在、ウガンダへは各国から大量の古着が提供されているが、これによって大きな弊害が起きている。安価過ぎて国内の衣料品産業が育たないのである。海外フィールドワーク後も現地に残り、インターンをする中で見出した発問だった。谷明叡さんは政治・行政、経済、法律など幅広い学びによって多角的に物事を見極める目が養えると考えて政策学部を選択した。1年次のオリエンテーション科目「First Year Experience」で岡本教授の専門分野とゼミの概要を知り、強い関心を抱いたという。卒業論文のテーマは「明治京都の再生」。明治維新の東京遷都で衰退の危機に直面した京都が先取と自立の精神に富んだ京都人の果敢な試みによって迅速に復興した事例が今日の地域活性化の優れたヒントになると考えている。専門性を極めるために大学院に進む予定である。多彩なフィールドワークで際立つ学びを得たと語るのは花畑有希

乃さん。視察を続ける中でゼミ生同士の交流も深まり、刺激に満ちた時を過ごすことができたと微笑む。卒業論文のテーマは「トランジション・タウン運動は持続可能な地域社会の構築に寄与するのか」。これはイギリス南部で始まった持続可能な社会の創出を目指す市民運動であり、大きな広がりを見せている。長瀬真優さんは政策学部のパンフレットで岡本ゼミの海外フィールドワークを知り、国際協力に関わる契機にしたいと考えて、選択した。卒業論文のテーマは「オープンデータは地域課題の解決に有効か」。上勝町の「葉っぱビジネス」がITを活用しているのを知り、この分野に着目。日本で初めてオープンデータに取り組んだ福井県鯖江市の事例を研究し、その可能性を考察している。伊藤麻さんは卒業論文でフェアトレードコーヒーをどのようにして日本に普及させるかを探究している。テーマは「コーヒーから見る貧困—倫理的消費増加を目指して」。当初は消費者目線で販促などの視点から考えていたが、深掘りを重ねる中で根幹的な課題に辿り着く。不可欠なのは年少の頃からの教育だと直言する。また、ゼミ活動をふり返り、岡本教授の多彩な人脈を通じて国際協力の第一線で活躍する方々の生の声を聞いたことも貴重な学びになったと語る。





## 確かな根拠を見出し 揺るぎない結論を引き出す その優れた能力が いずれの分野でも必ず役立つ



**内** 田尚孝教授の専門分野は中国近現代史、近現代日中関係史、中国外交である。現在は主に20世紀前半の日中関係を政治史、外交史の側面から研究している。「中国との良好で安定した関係の構築は21世紀の日本にとって極めて重要な課題です。そのためには、客観的な観点に立ち、事実に基づいて相手国を深く理解しなければなりません。例えば、中国側の外交文書などを緻密に読み込み、中国側の関心や重視している点を的確に把握し、日本側との相違点を明確に認識することが不可欠です。しかし、現状ではこれが充分にできているとは思えない。国家間レベルでの誤解を放置するのは非常に危険です。また、中国は巨大で多様な国家です。何かを指摘する時は、それがどこまで普遍化できるのかにも注意を払う必要があります」。

**本** ゼミの開講は2年次春学期。3年次までは内田教授が指定するテキストと各ゼミ生が主体的に選出した中国関係の新聞記事に基づく演習を並行して行い、4年次から卒業研究に取り組む。最初のテキストは清末の中国を舞台にした歴史小説でテレビドラマにもなった浅田次郎著『蒼穹の昴』。続けて上海、戦後日中関係に関する書籍によって150年前後の歴史を俯瞰。2年次秋学期から1年間に及ぶ中国留学では、見聞を広げながら

各自が設定した課題に取り組む。帰国後は、中国語圏に特化したトピックス別の専門書、グローバル社会に関する研究書などを読み解き、考察を深めていく。これと共に新聞記事によるプレゼンテーションを実施しているのは、時代の動向に対する鋭敏な眼力を養うためである。「確かな根拠を見出し、揺るぎない結論を導き出す。これが説得力の起点になります。ゼミではテキストと新聞記事によるゼミ生を主体にした発表と討議によってこの能力の強化を徹底的に試みています。卒業後、いずれの分野に進んでも必ず役立つからです」。その総仕上げが卒業研究であり、ゼミ生全員が参画する卒業研究報告会と卒業研究文集の編集が最後の大仕事となる。

**取** 材当日は4年次生対象の「専門演習3」、所属するゼミ生は21人。古川航也さんは長期留学を実現するために、Study Abroadが組み込まれている本学部を選択した。小学校4年生までの5年間をアメリカで過ごし、大学時代に再び海外に行きたいと切望していたからである。本コースを選んだのは英語以外の言語を習得するためであり、北京大学に留学することも大きなチャンスだと判断した。「内田先生のゼミに所属したのは政治、経済、社会などを通じて中国を俯瞰的に学びたいと思ったからです。毎回、ゼミ生

の多様なテーマに基づく発表で知識が広まり、討議の大切さを実感し、発信力も鍛えられました。内田先生は厳しい方ですが、その奥に深い愛を感じています」。留学時には勉強に打ち込みながら野球サークルにも所属し、現在も親密な交流が続いている。卒業研究では中国の水資源の問題を探究。卒業後は外資系コンサルタント会社でこれまでの学びを活かしたいと考えている。植田佳淑さんは中学時代に起きた尖閣諸島沖中国漁船衝突事件で日中関係に強い関心を抱くようになった。中国に対するイメージは北京大学への留学で激変したという。「想像していたような反日感情は感じられず、誰もが気さく。寮生活でも交流が深まりました」。本ゼミでは準備のために時間に追われたが、発表や議論、読破した書籍や文献などから多大な学びを得たとふり返る。卒業研究では中国の改革開放が在日中国人と日中関係に及ぼした影響を考察。卒業後は地元である静岡の地方銀行で企業の海外進出をサポートしたいと願っている。大学進学以前はキャビンアテンダントを目指していたと語るのは富田萌恵さん。今後、英語の他に最重視される言語は中国語だと見極めて中国語コースを選択した。「内田先生のゼミは非常にハードだということを誰もが承知で選んでおり、その懸命に頑張っている姿が大きな刺激になりました。また、北京大学での1年間で偏見がなくなり、真実を直視することができました。日本の先端技術は凄いという思いも、留学を契機に変わりました」。モノづくりの基盤であり、裾野の広い化学メーカーに就職して日本の次代のモノづくりに貢献したいと考えている。



## スポーツ傷害予防の新たな学際的研究拠点を確立し 先進の成果の数々を国内外へ発信する

スポーツ傷害の予防は多様な領域から包括的に研究しなければ先進の成果は得られない。この観点に立脚し、スポーツ傷害予防研究センターでは医師、理学療法士、トレーナー、トレーニング科学研究者、健康科学研究者、栄養学研究者による学際的な探究を推し進めている。具体的には、①スポーツ医学検診による早期の傷害発見と予防、②物理療法によるコンディショニング、③栄養学・生化学によるサポート、④新たなトレーニング方法の提案、⑤バイオメカニクスの観点からの傷害予防、⑥障がい者スポーツの支援の6分野である。次世代に向けた中核的拠点としてそれぞれの分野の専門家とともに情報発信を目指している。

### スポーツ傷害予防 研究センター

センター長 **北條 達也**

【スポーツ健康科学部教授】

1988年京都市立医科大学医学部卒業、1994年京都市立医科大学博士課程修了。整形外科医として少年のスポーツ傷害の予防に力を注いでいる。中学時代からテニスに打ち込み、日本テニス協会アンチ・ドーピング委員会・副委員長を務めている。現在はテニスと共に大好きな温泉巡りを堪能。日本温泉気候物理医学会温泉療法医・評議員としても活躍中。



## 何よりも重要なのは早期の発見

スポーツ傷害予防研究センターは昨年6月に新設された。スポーツ医学検診による傷害の早期発見と発生予防では、主に小・中学生を対象にスポーツ傷害の予防を行っている。「私は整形外科医で京都府立医科大学大学院医学研究科の客員講師、NPO法人京都運動器障害予防研究会の副理事長も務めています。京都は少年野球が盛んな土地柄で、甲子園やプロを目指してリトルリーグで活躍している少年が数多くいます。成長期である彼らの成長軟骨は血液の循環が滞ると壊死（組織が死んでしまうこと）を起こすことがあります。特に注視しなければならないのが肩と肘です。軟骨は神経がないので悪化して剥がれるまで気づかないことも多い。発症率は100人に3人ほどです。手遅れになると手術をすることになりますが、野球を続けることができなくなるケースも出てきます」。これを防ぐために、本研究センターではNPO法人（京都運動器障害予防研究会）と協力して京都府各地での検診活動を行い傷害の発見に努めている。定期的な検診から得られる発症率や回復に要した時間などに関するデータも貴重な参考資料になっている。「何よりも重要なのは早期発見です。成長期は特にトラブルが多い。様々なスポーツに打ち込んでいる選手が断念に追い込まれるのは忍びない。だから、予防と発見に全力を注ぎたいのです。大規模な検診は私ひとりの力では到底無理で、センターを設立した理由のひとつでもあります。」と、北條達也センター長はこの取り組みへの思いを語る。

## 最先端の物理療法を多角的に探究

コンディショニングのための物理療法の研究では、温熱療法による関節軟骨保護やアスリートの疲労回復を目的にしたマイクロバブル人工炭酸泉入浴法の確立を目指している。遠赤外線やレーザーなどによる深部温熱刺激によって軟骨細胞を40℃位まで加熱すると細胞の代謝は最も活性化し、さらにはヒートショックプロテイン（HSP）によって生命力も上がりストレス耐性が高まる。これをアスリートの傷害予防に活用しようとしている。また、オリンピックの選手村などにはすでに「アイスバス」が取り入れられている。車のエンジンと同じでアスリートも身体がオーバーヒートするとパフォーマンスが落ちるからである。「センター員の1人である同学部

の福岡教授と共同研究を進めており、炭酸ガスの血管拡張作用を利用して冷却の疲労回復効果をさらに高めるのが狙いです。普通の水よりも効果があるエビデンスが得られています。」と自信を見せる。また、テーピングの効果検証も行っている。「例えば、膝の靭帯を切った人に、テープ（靭帯と同じ方向）を貼るとテープによる皮膚からの刺激で失われた感覚がある程度代償されます。経験的になんとなく使っているテーピングの有効性の実証です」。この他に、北條センター長が明治鍼灸大学（現在の明治国際医療大学）の教員をしていた頃から携わっていた低周波電気刺激による末梢神経修復や筋損傷の回復促進も研究対象にしている。

## 2020年に向けた支援体制の新構築

栄養学と生化学の領域では、センター員にそれらのスペシャリストを迎えて練習方法の相違による筋肥大と抑制メカニズムの解明、さらには栄養やサプリメントの適切な摂取法、熱中症を防ぐための水分補給法、酸素水の飲用による抗酸化効果の誘導なども共同研究している。また、トレーニング領域では低酸素環境下での適切な訓練法の開発にも興味を示している。体内が酸素不足状態になると酸素の運搬に携わる赤血球の量が増加し、パフォーマンスの向上に役立つからである。さらには基礎的な研究だけでなくGPS・ドローンによる競技力の評価と戦略的戦術の解明、ポジション別戦術の画像解析、選手の視空間の認識能力に関わる脳内神経基盤の究明、減量と筋タンパク質の新生を目的にしたサプリメント摂取法の探究なども合わせて複合的なアスリートのサポートを狙っている。

パラリンピック選手の動作解析と競技用具や義足の開発も研究センターのテーマである。具体的にはパワーリフティング選手の動作解析・運動生理学に基づく研究で競技力の向上を図り、バスケットやテニスの車いすの開発を試み、義足や道具の身体化に関する神経・筋機能の可塑性を検討。選手の聴覚・視覚トレーニングを強化するために、fMRI（磁気共鳴機能画像法）を用いた評価を目指している。MRI装置を用いて脳活動を調べる方法である。この他に障がい者スポーツの普及とボランティア活動の調査、障がい者・高齢者の運動処方とリハビリテーション、スポーツ施設の活用を促すためのスポーツ教室の開催なども積極的にサポートしている。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた新たな支援体制の構築も本研究センターの重要な目標である。



## 2019年度 予算編成方針について

2019年度予算編成方針は、法人の予算編成方針に基づき、  
2018年11月1日の大学予算委員会および大学評議会で審議のうえ決定されました。  
この方針に基づき予算編成を行い、一層の教育研究環境の維持・充実を進めてまいります。  
なお、予算の概要については次号に掲載予定です。

相次ぐ自然災害や貿易摩擦といったリスク要因により、企業の業績は総じて好調であるにもかかわらず、景気の先行きは決して楽観視することのできない状況にある。そのような環境下、「新しい経済政策パッケージ」や「人づくり革命基本構想」に見られる通り、国の重要施策では現状打破の切り札としての教育機関への期待がかつてないほどに高まっており、各大学の機能・役割の明確化等により国全体としての人材育成力を高めようとしている。近年の私立大学等経常費補助金の配分基準や大学等の設置に係る認可基準の厳格化は、本学をはじめとする大規模私立大学の経営にとってまさに吹き荒れる逆風だが、本学は、どのような局面を迎えようとも建学の精神に則り教育の質向上に邁進の上、社会に有為な人物を養成、輩出し続けなければならない。

2019年度は、「同志社大学ビジョン 2025—躍動する同志社大学—」（以下「ビジョン」という。）の下の中期行動計画について、これまでの取組を振り返り、2025年に向けての更なる展開を見定める節目となることが想定される。中でも「2025 ALL DOSHISHA 募金」の推進はビジョンの期間を通じての重要な取組であり、引き続き、教職員、卒業生、企業・団体、在学生・親戚等といった同志社大学に関わるすべての人の連携意識を深め、確固たる協力体制の構築を目指す。教学面では、学部においては、リーダー養成プログラムの一環として昨年度試行した「新島塾（仮称）」の開発を進める一方、大学院においては、グローバル・リソース・マネジメント事業を適切な規模で継続するとともに、卓越大学院プログラムの動向も見極め、教育改革を推進する。さらに、「同志社大学チュービンゲン EU キャンパス」の具現化に向け、本学からの教員派遣ならびにチュービンゲン大学が提供するプログラムおよび本学のセメスタープログラムへの学生派遣の準備を進める。

教育研究環境の面では、高額機器を安定的に整備するための方策として、第2号基本金のうち研究装置設備等整備資金の組入を再開するほか、既に建設計画を進めている新学生寮における多様な学生の共修環境の具体的な検討を進める。学生支援の面では、国の「高等教育の負担軽減の具体的方策」の動向に注視しつつ、同志社大学奨学金基金の運用果実を中心とした奨学事業の今後のあり方についての見通しを立てる。研究面では、学術研究奨励費を新設し、科学研究費助成事業への申請支援を強化する。大学運営の面では、内部質保証に係る取組を推進し、2020年度の大学基準協会による機関別認証評価に向けて準備を進める。

収入面では、学生生徒等納付金について、学部入学者数は入学定員通りとし、入学生学費の改定および過年度の学費改定による年次進行での増収を見込む。また、入学志願者の安定的確保や補助金、寄付金、受託事業収入など外部資金の増収について、引き続き積極的に取り組んでいく。

支出面では、人件費は新規採用を含む所要額を計上するが、有期雇用制度や外部委託を積極的に活用し、金額面での抑制を図る。また、物件費については、学長裁量経費の拡充などの重点事業項目に係る所要額を計上する一方、2019年10月に予定されている消費税率の改定に向けては、事業の効率化、低廉な業者との取引推進、予算執行時期の早期化等を積極的に進めることにより、全体として経費の抑制を図る。さらに、教育研究費については、教育環境改善費予算および国際化戦略特別経費予算について前年度と同様の基準により計上するほか、繰越予算については具体的な事業実施計画に基づく効果的な執行を推進する。

なお、長年にわたり実現が困難となっている収支均衡予算編成に向けては、とりわけ経常勘定における支出超過の改善は急務であり、教育研究環境の維持・充実に取り組むための財源については、学費支弁者の負担だけではなく、既存事業の見直し等による支出抑制により確保する必要がある。については、教育研究費に係る積算基準の一部、経常的経費および維持運営費の一部に係る支出抑制策を引き続き実施するとともに、過年度の予算執行状況を精査し、予算の効率的活用を検証の上、予算を編成する。また、大規模建設事業については、中・長期的な施設設備整備計画に基づき、その他既存の施設設備の整備については、安全管理面において緊急性の高い事業を最優先としつつ、キャンパスの快適性にも配慮の上事業を厳選し予算を計上する。

以上の方針のもと、予算における計画性を重視し、限られた財源を効率的に配分することを大原則として2019年度予算を編成する。

財務部 経理課

# 同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金のご案内

本学は創立 150 周年を迎える 2025 年に向けて「躍動する同志社大学」をコンセプトに「同志社大学ビジョン 2025」を掲げ、ビジョン推進のため 2017 年 10 月より「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」へのご協力を呼びかけております。本募金事業では、中長期ビジョン推進はもとより、経常的な取り組みである奨学金給付や課外活動支援、施設設備整備に対する募金活動の展開も行います。本学の教育理念と募金事業にご理解をいただき、より一層の温かいご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



総長・理事長 八田 英二



学長 松岡 敬

## 募集要項

募 集 期 間 : 2017年10月1日~2026年3月31日

目 標 額 : 50億円

募 集 単 位 : 個 人 1口 1万円 ※1口あたりの金額を設定しておりますが、金額に関わらずありがたく  
法人・団体 1口 10万円 頂戴いたします。継続的なご支援を賜れましたら幸いです。

税制上の優遇措置 : 個人 特定公益増進法人または税額控除対象法人による減税措置  
法人 特定公益増進法人または受配者指定寄付金制度による減免税措置

## 「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」対象事業(10項目)

リーダー養成プログラム運営支援

グローバル化の促進支援

高大接続プログラムの展開支援

特定寄付奨学金

育英型奨学金

スポーツ活動充実資金

文化系公認団体活動充実資金

今出川校地新図書館建設

新たな学生寮建設

用途は特定しない

## 寄付者への顕彰制度

寄付者の皆さまのご支援に対しまして、独自の顕彰制度を設けております。詳しくは ALL DOSHISHA 募金サイトよりご確認いただけますようお願いいたします。

「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」の寄付者銘板を設置しました。募金期間内に累計 10 万円以上のご寄付を賜った場合、ご選択いただいた芳名公開区分に応じて寄付者銘板に順次ご芳名を掲載させていただきます。銘板の設置場所は、今出川キャンパス・良心館1階北入口の自動扉を入ってすぐです。



## 寄付のお申込み方法

### ●インターネットによるお申込みの場合

ALL DOSHISHA 募金サイト <https://bokin.doshisha.ed.jp/2025alldoshisha/>

または

### ●お振込みの場合

お手数ですが、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。資料を送付させていただきます。また、勤務先、ゼミやクラブ、ご有志等での集まりがございましたら、資料を送付させていただきますので、以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

スマホからの  
ご寄付も可能です



お問い  
合わせ先

同志社大学 学長室 募金課

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL : 075-251-3230 FAX : 075-251-3097

Email : [ji-bokin@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-bokin@mail.doshisha.ac.jp)



## 新任教員紹介

①所属 ( )内は所属学科 ②職名 ③主な担当科目



**瀧田 健介**  
(タキタ ケンスケ)  
①文(英文) ②准教授  
③Writing AI



**土肥 歩**  
(ドイ アユム)  
①文(文化史) ②助教  
③文化史特論(7)



**POZZI Carlo Edoardo**  
(ポッツィ カルロ エドアルド)  
①文学研究科 ②助手



**岩月 真也**  
(イワツキ シンヤ)  
①社会(産業関係) ②助教  
③産業関係基礎論



**鄭 熙聖**  
(チョン ヒソン)  
①社会学研究科  
②助手



**長谷川 一年**  
(ハセガワ カストシ)  
①法(政治) ②教授  
③政治思想の源流



**安達 晃史**  
(アダチ コウジ)  
①商 ②助教  
③基本統計学



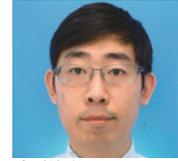
**下門 直人**  
(シモカド ナオト)  
①政策 ②助教  
③ビジネス・トピックス



**鈴木 智気**  
(スズキ トモキ)  
①商 ②助教  
③ビジネス・トピックス



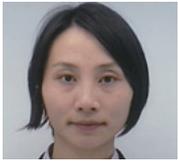
**王 睿**  
(オウ エイ)  
①商 ②助教  
③簿記学-II



**章 胤杰**  
(ショウ インケツ)  
①商 ②助教  
③ビジネス・トピックス



**趙 怡純**  
(チョウ イジュン)  
①商 ②助教  
③ビジネス・トピックス



**岩島 史**  
(イワシマ フミ)  
①政策 ②助教  
③アカデミック・スキル1



**松本 明日香**  
(マツモト アスカ)  
①政策 ②助教  
③アカデミック・スキル1



**夏 世明**  
(カ セイメイ)  
①総合政策科学研究科  
②助手



**劉 雪琴**  
(リュウ セッキン)  
①文化情報学研究科  
②助手



**長谷川 元洋**  
(ハセガワ モトヒロ)  
①理工(環境システム)  
②教授 ③生物学II



**竹中 壮**  
(タケナカ サカエ)  
①理工(化学システム創成工)  
②教授 ③物理化学III



**衣斐 信介**  
(イヒ シンスケ)  
①理工(電子工) ②准教授  
③電気回路学I



**原 峻平**  
(ハラ シンペイ)  
①理工(エネルギー・機械工)  
②助教  
③コンピュータプログラミング



**野口 尚史**  
(ノグチ タカシ)  
①理工(機械システム工)  
②准教授 ③流れ学II・同演習



**日和 悟**  
(ヒワ サトル)  
①生命医科(医情報)  
②准教授 ③医情報処理



**高柳 真司**  
(タカヤナギ シンジ)  
①生命医科(医情報)  
②助教 ③プログラミング



**三田 雄一郎**  
(ミタ ユウイチロウ)  
①生命医科(医生命システム)  
②助教 ③生物物質分析化学



**毛利 真弓**  
(モウリ マユミ)  
①心理 ②准教授  
③犯罪心理学(司法・犯罪心理学)



**嶋 大樹**  
(シマ タイキ)  
①心理 ②助教  
③心理学的支援法



**Edward Ogle HEARN**  
(エドワード オグル ハーン)  
①グローバル・コミュニケーション  
②助教  
③International Political Issues



**浅羽 祐樹**  
(アサハ ユウキ)  
①グローバル地域文化  
②教授  
③グローバル地域文化発展セミナー



**神崎 舞**  
(カンザキ マイ)  
①グローバル地域文化  
②助教  
③グローバル地域文化導入セミナー



**柴田 修子**  
(シバタ シュコ)  
①グローバル地域文化  
②助教  
③南北アメリカ地域の歴史3



**林 葉子**  
(ハヤシ ヨウコ)  
①人文科学研究所  
②助教



**辻 高明**  
(ツジ タカアキ)  
①学習支援・教育開発センター  
②准教授



**澤 宏司**  
(サワ コウジ)  
①学習支援・教育開発センター  
②准教授



**板倉 昭二**  
(イタクラ ショウジ)  
①研究開発推進機構  
②専任フェロー



**鳥居 知宏**  
(トリイ トモヒロ)  
①研究開発推進機構  
②特定任用准教授



**城所 比奈子**  
(キトコロ ヒナコ)  
①研究開発推進機構  
②特定任用助教



**保井 健児**  
(ヤスイ ケンコ)  
①研究開発推進機構・法  
②特別任用助手



**大平 剛士**  
(オオヒラ ツヨシ)  
①研究開発推進機構・政策  
②特別任用助手



**中村 祐士**  
(ナカムラ ユウジ)  
①研究開発推進機構・生命医科  
②特別任用助手



**鎌田 泰輔**  
(カマダ タイスケ)  
①研究開発推進機構・心理  
②特別任用助手



**中屋 昌子**  
(ナカヤ マサコ)  
①研究開発推進機構・  
グローバル地域文化  
②特別任用助手

## 退職教員

2019年3月31日付で、次の先生方が退職されました。



**松本 浩延**  
(マツモト ヒロノブ)  
①法(政治) ②助教  
③政治学入門



**小倉 隆**  
(オクラ タカシ)  
①法(法律) ②教授  
③特殊講義B



**陳 燕双**  
(チェン ヤンシュアン)  
①商学研究科  
②助手



**新見 陽子**  
(ニイミ ヨウコ)  
①政策 ②教授  
③国際協力政策



**田原 義朗**  
(タハラ ヨシロウ)  
①理工(化学システム創成工)  
②准教授 ③化学工学II



**鈴木 将之**  
(ススキ マサユキ)  
①理工(電気工) ②准教授  
③電気磁気学II



**MONIRUZZAMAN Mohammad**  
(モニルザマン モハマド)  
①生命医科学研究科  
②助手



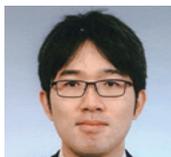
**新井 彩**  
(アライ アヤ)  
①スポーツ健康科 ②助教  
③基礎実習



**山中 美潮**  
(ヤマナカ ミシオ)  
①アメリカ研究所  
②助教



**河南 順一**  
(カワナミ ジュンイチ)  
①ビジネス研究科 ②教授  
③Communication and Information Technology



**米村 洋而**  
(ヨネムラ ヨウジ)  
①研究開発推進機構  
②特定任用助教



**櫻井 真文**  
(サクライ マサフミ)  
①研究開発推進機構・文  
②特別任用助手

### ■神学部

原 誠 教授

### ■神学研究科

李 元重 助手

### ■文学部

秋篠 憲一 教授

中井 悟 教授

斉藤 延喜 教授

田端 信廣 教授

龍城 正明 教授

### ■社会学部

沖田 行司 教授

黒木 保博 教授

福田 順 助教

### ■社会学研究科

姜 民護 助手

### ■法学部

堂園 昇平 教授

張 雪斌 助教

### ■経済学部

佐々木 雅幸 特別客員教授

醍醐 元正 教授

八田 英二 教授

徳岡 一幸 教授

内木 栄莉子 助教

鄒 蓉 助教

上田 有里奈 助教

迫田 さやか 助教

卫 娣 助教

### ■商学部

藤原 秀夫 教授

船本 多美子 助教

鬼頭 弥生 助教

久納 誠矢 助教

塩谷 剛 助教

田中 圭 助教

### ■政策学部

原田 徹 助教

### ■文化情報学部

影山 太郎 特別客員教授

石岡 学 助教

### ■生命医科学部

斎藤 芳郎 教授

吉川 研一 教授

### ■スポーツ健康科学部

大平 充宣 特別客員教授

### ■心理学部

藤岡 勲 准教授

### ■理工学部

平山 朋子 教授

笹岡 秀一 教授

千田 衛 教授

武田 博清 教授

江本 顕雄 准教授

森岡 悠 助教

### ■理工学研究科

RAHADIAN Yusuf 助手

### ■理工学部実験実習センター

下坂 厚子 実験講師

### ■グローバル・コミュニケーション学部

三ツ木 道夫 教授

王 松 准教授

### ■グローバル地域文化学部

源馬 英人 教授

西納 春雄 教授

### ■グローバル・スタディーズ研究科

李 凱航 助手

Nam Hoai TRINH 助手

### ■司法研究科

森田 章 教授

### ■ビジネス研究科

Keith G.JACKSON 教授

Manish SHARMA 准教授

### ■学習支援・教育開発センター

濱嶋 幸司 准教授

菅澤 貴之 准教授

### ■日本語・日本文化教育センター

櫻井 千穂 准教授

### ■研究開発推進機構

廣野 守俊 准教授

伊佐 真幸 助教

松田 佳尚 准教授

酒井 大輔 助教

渡辺 祥司 助教

橋之口 道宏 准教授

平岡 光太郎 助教

田中 弘美 助教

安里 陽子 助手

古山 貴文 助手

小松原 郁 助手

岡村 優希 助手



## 同志社大学 新島塾 2019年春開校



同志社大学では、海図なき未来を逞しく生き抜く力を持ち、良心が充満した次代の人物を養成する新しい教育プログラムに取り組んでいます。2019年度からは、これを「同志社大学新島塾」(以下「新島塾」)として本格的に展開していきます。

時代がいかに移り変わろうとも、平和で豊かな社会を持続させるには、物事の本質を見極める力がある優れた市民、人に寄り添って真摯に意見を汲み取り、他者や組織を最善の方向に導くことができる人物が欠かせません。

そのため新島塾では、専門性を身につけるだけにとどまらず、文系と理系の垣根を越えて幅広い教養を高め、総合知を備えた人物の養成を目指しています。新島塾は、学生諸君の意欲と能力を在学中に可能な限り伸ばすために骨のある厳しい取り組みとなりますが、学生諸君が時間と空間を共有することにより、互いに切磋琢磨できるものと大いに期待しています。

同志社大学 新島塾 塾長(同志社大学学長) 松岡 敬

### 入塾対象等

入塾学年	本学学部2年次生(出願・審査時は学部1年次生)
入塾期間	2年間(学部2年次及び3年次)
定員	25名(1学年) ※入塾資格者が5名未満の場合、当該年度の募集は停止します。
修了証	2年間の入塾期間を終え、修了要件を満たした塾生には、学長(塾長)から「同志社大学新島塾修了証」を授与します。

### 特徴

POINT1	<b>新島塾独自のプログラムが受講出来ます!</b> 塾生しか学ぶことが出来ないプログラムを提供します。少人数で講義を受け、レポート作成や討論を行い、切磋琢磨しながら学びます。
POINT2	<b>潜在力の顕在化に向けた基礎トレーニングです!</b> 学びに対する意欲の高い学生の能力をより伸ばさせるため、厳しい指導の下、多くの課題をこなし、精神的にも負荷がかかる内容です。
POINT3	<b>各界のリーダーから直接学ぶことが出来ます!</b> 「リーダーに学ぶ徳力の涵養」(必修プログラム)では、各界のリーダーを招聘し、その思考や規範を直接学びます。

### プログラム

新島塾では「必修」「選択必修」「選択」の3つのグループで構成するプログラムを通して人物養成の指針に掲げる資質や能力を身につけ、それらを統合的に活用して発揮する力を養います。

#### 新島塾オリジナル(必修)プログラム紹介

**読書から始める 知の探求** 春期、秋期、冬期に課題図書を読み、あらかじめ指定された読書後の活動(書評の執筆、課題図書のテーマに関するディベートやフィールドワーク等)を通して取り上げられる問題を考察、探究し、幅広い教養や論理的思考力の獲得、社会的視野の拡大と意欲の醸成、豊かな感性を育みます。

#### 合宿で鍛える 知的基礎体力

日常生活から離れて塾生と講師と時間・空間を共有して語り、仲間と協働する価値を学ぶことに集中します。事前に合宿のセッションテーマに関連する課題図書を読み込み、合宿中は担当教員による講義の受講と確認小テストを繰り返し、事後レポートの作成や討論を行って、専門分野に留まらない学知の必要性を思い知るとともに、複雑な社会情勢を読み解くための基礎力を培います。

#### リーダーに学ぶ 徳力の涵養

各界のリーダーを招いてあらかじめ設定したテーマに関して対話・討論し、人生の岐路となった経験、リーダーとして下した重大な決断、対面した危機や困難をどのように克服して乗り越えたか等を知り、その思考や規範を学び、ロールモデルを発見します。

### 大学ホームページ新島塾

[https://www.doshisha.ac.jp/information/approach/neesima\\_school/index.html](https://www.doshisha.ac.jp/information/approach/neesima_school/index.html)

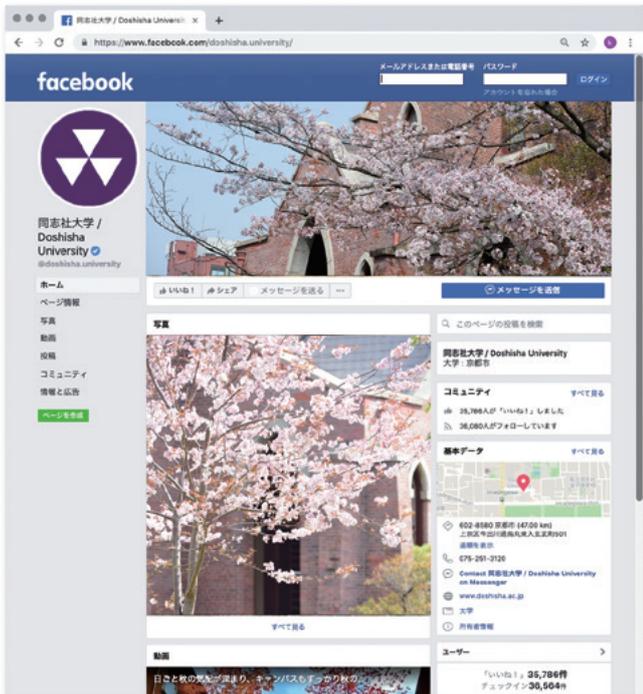


# 同志社大学公式SNS一覧

## 大学公式



同志社大学  
公式 Facebook



<https://www.facebook.com/doshisha.university/>



同志社大学  
公式 Twitter



[https://twitter.com/DoshishaUniv\\_PR/](https://twitter.com/DoshishaUniv_PR/)

## 同志社大学 vision2025



<https://www.facebook.com/doshisha.vision2025/>



### 社会学部教育文化学科



[https://www.instagram.com/doshisha\\_edubunka/](https://www.instagram.com/doshisha_edubunka/)



### グローバル地域文化学部



<https://www.facebook.com/gr.doshisha/>



### Doshisha University International Science and Technology Course



<https://www.facebook.com/DoshishaUniv.ISTC/>



### 国際センター



<https://www.facebook.com/DoshishaU.IC/>



### グローバル・コミュニケーション学部



<https://www.facebook.com/同志社大学グローバルコミュニケーション学部-358606544164123/>



### 国際教育インスティテュート



<https://www.facebook.com/ila.doshisha/>



### 法科大学院



<https://www.facebook.com/doshishals/>



### グローバル・リソース・マネジメント



<https://www.facebook.com/doshishagrm/>





## 本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

### 地域福祉の理論と方法 第3版

上野谷加代子 他 編著 永田祐 他 著  
中央法規出版 2,600円

### 現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版

小黒純 他 著 世界思想社 2,300円

### 「手塚マンガの映画的手法」と「鋭角」

竹内オサム 著 竹内オサム研究室

### 始まりの知

富山一郎 著 法政大学出版局 3,000円

### 読みつぐビートルズ

浜矩子 他 著 朝倉書店 1,800円

### ブリッジブック法システム入門 第4版

武蔵勝宏 他 著 信山社 2,700円

### 人権問題資料 改訂第6版

横井和彦 越川弘英 三木メイ 他 著  
同志社大学キリスト教文化センター

### 概説憲法コンメンタール

尾形健 他 著 信山社 3,600円

### バットマンの死

遠藤徹 著 新評論 2,400円

### 基礎心理学実験法ハンドブック

青山謙二郎 竹原卓真 他 著 朝倉書店 17,000円

### 日本政治の第一歩

岡野八代 他 著 有斐閣 1,900円

### 裁判例コンメンタール刑事訴訟法 第4巻

河村博 他 編 立花書房 7,600円

### 問題演習基本七法

十河太朗 他 著 有斐閣 1,600円

### アルゴリズム取引

津田博史 監修 朝倉書店 3,200円

### クエーカー入門

中野泰治 訳 新教出版社 2,400円

### 新興国市場と日本企業

関智宏 他 著 同友館 1,800円

### 民法演習サブノート210問

佐久間毅 他 編著 弘文堂 2,900円

### 日本植民地研究の論点

水谷智 他 著 岩波書店 3,800円

### 論集泉鏡花 第五集

田中勲儀 他 著 和泉書院 8,000円

### 論集泉鏡花 第三集

田中勲儀 他 著 和泉書院 5,000円

### 良心学入門

小原克博 内藤正典 深谷格 木原活信 八木匡  
和田善彦 北寿郎 下橋昌哉 林田明 櫻井芳雄  
貫名信行 武藤崇 廣安知之 他 著  
岩波書店 1,500円

### いま大学で勉強するということ

松岡敬 他 著 岩波書店 1,300円

### 苦難と心性

石坂尚武 著 刀水書房 8,400円

### 古代物語としての源氏物語

廣田收 著 武蔵野書院 11,000円

### 粉体の表面処理・複合化技術集大成

白川善幸 他 著 テクノシステム 48,000円

### 赤い鳥事典

竹内オサム 著 柏書房 13,000円

### 概説サイバー犯罪

河村博 他 編著 青林書院 4,400円

### 金融商品取引法への誘い

川口恭弘 著 有斐閣 1,900円

### 「スコットランド問題」の考察

カウ昌幸 他 著 法律文化社 5,600円

### 遮音・吸音材料の開発、評価と騒音低減技術

土屋隆生 他 著 技術情報協会 80,000円

### アルツハイマー病 発症メカニズムと新規診断法・創薬・治療開発

石浦章一 他 著 エヌ・ティール・エス 45,000円

### Q&A朝鮮人「慰安婦」と植民地支配責任 増補版

板垣竜太 他 編 小川原宏幸 他 著  
御茶の水書房 1,700円

### ユーリカ民法3 債権総論・契約総論

上田誠一郎 編 上田誠一郎 他 著  
法律文化社 2,700円

### 民法理論の対話と創造

荻野奈緒 他 著 日本評論社 6,000円

### 海洋国家アメリカの文学的想像力

林以知郎 他 編著 阿川尚之 他 著  
開文社出版 2,800円

### EUにおける政策過程と行政官僚制

原田徹 著 晃洋書房 3,200円

### 新版 行政学の基礎

風間規男 編 風間規男 他 著 一藝社 2,400円

### 災害リスクの心理学

中谷内一也 訳 丸善出版 2,800円

### 日本の海洋政策と海洋法

坂元茂樹 著 信山社 8,800円

### 人権問題資料 改訂第7版

横井和彦 越川弘英 三木メイ 他 著  
同志社大学キリスト教文化センター

### 構造制御による

### 革新的ソフトマテリアル創成

彌田智一 他 著 化学同人 4,200円

### 語彙・形態素習得への新展開

稲垣俊史 他 著 くろしお出版 2,800円

### 自分たちで行うケアマネージャーのための事例研究の方法

空閑浩人 他 編著 ミネルヴァ書房 2,400円

### 債権法改正と民法学I

大中有信 佐久間毅 佐々木典子 他 著  
商事法務 13,000円

### 債権法改正と民法学II

深谷格 他 著 商事法務 12,000円

### 債権法改正と民法学III

山下友信 他 著 商事法務 11,000円

### 講座 機内の古代学 第II巻 古墳時代の畿内

若林邦彦 北康宏 他 著 雄山閣 7,000円

### カウンセリングにおける

### アセスメントの原理と適用 第4版

石川信一 他 監訳 金子書房 10,000円

### 行政手続法・行政不服審査法 第3版

佐伯祐二 他 著 日本評論社 5,800円

### 反・観光学

井口貢 著 ナカニシヤ出版 2,400円

### 比較憲法学の現状と展望

尾形健 松本哲治 他 著 成文堂 22,000円

### 活断層詳細デジタルマップ[新編]

堤浩之 他 編著 東京大学出版会 32,000円

### 実証の考古学

水ノ江和同 若林邦彦 浜中邦弘 他 編著  
同志社大学考古学研究室

### 記憶と共生するボーダレス文学

臼井雅美 著 英宝社 4,000円

### テキストアナリティクス

金明哲 著 共立出版 2,300円

### フッサールの遺産

中村拓也 訳 法政大学出版局 4,000円

### 限界の現代史

内藤正典 著 集英社 860円

### 会社法コンメンタール 第15巻 持分会社(2)

伊藤靖史 他 著 商事法務 5,000円

### 消費者心理学

高橋広行 他 著 勁草書房 2,700円

### 貧困と生活困窮者支援

埋橋孝文 他 編著 郭芳 野村裕美 他 著  
法律文化社 3,000円

### 現代日本社会の権力構造

ジル・スティール 他 編著 グレゴリー・プール  
池田謙一 他 著 北大路書房 4,500円

### ジャーナリストの誕生

河崎吉紀 著 岩波書店 2,400円

### 新版教育課程論のフロンティア

奥野浩之 他 著 晃洋書房 1,400円

### 森林と菌類

大園享司 他 著 共立出版 3,500円

### -21世紀の工作機械と設計技術を知る- 機械加工&切削工具

廣垣俊樹 他 著 大河出版 4,000円

### アメリカ文学における

### 幸福の追求とその行方

白川恵子 他 著 金星堂 3,000円

### 「技術」が変える戦争と平和

阿部亮子 他 著 芙蓉書房出版 2,500円

### 知識の基盤になるファイナンス

内木栄莉子 他 著 中央経済社 2,500円

### 債権総論

荻野奈緒 他 著 日本評論社 1,900円

### 国際私法 第2版

林貴美 他 著 有斐閣 3,000円

### 線形代数学

多久和英樹 浦部治一郎 他 著  
学術図書出版社 2,000円

### 世界を読み解く「宗教」入門

小原克博 著 日本実業出版社 1,700円

### テルエルの恋人たち

稲本健二 訳 現代企画室 2,800円

### 現代家族を読み解く12章

尹珍喜 他 著 丸善出版 2,400円

### 黒田日銀 超緩和の経済分析

北坂真一 他 著 日本経済新聞出版社 2,200円

中部嘉人さん  
1994年文学部社会学科新聞学専攻卒業

内田明良さん  
文学部社会学科新聞学専攻卒業

株式会社文藝春秋 代表取締役社長

# 中部嘉人さんに聞く

日本の出版業界を牽引する株式会社文藝春秋の社長に昨年就任し、大学時代は今日に続く同志社映画サークルF.B.I.を創部して自主映画づくりに挑んだ中部嘉人さん。その大先輩に現F.B.I.会長を務める内田明良さんがインタビューしました。

## ある先輩に多大な影響を受け 現在に続く道を歩み始めた

**内田** 本学の新聞学専攻(現 社会学部メディア学科)を選択された経緯を聞かせていただけますか。

**中部** 私は長野県出身ですが、浪人生になった時に東京の予備校に入り、そこで紹介してもらった賄い付きの下宿で一人暮らしを始めました。親元を離れた解放感で少し浮ついていたのですが、その下宿で出会った先輩に多大な影響を受けました。医学部への進学を目指しておられたのですが、文学などの世界にも造詣が深く、圧倒されたのです。私も高校

時代から古典的なものはある程度は読んではいましたが、文学青年ではなかった。『文藝春秋』という月刊誌も彼を通じて知りました。借りて熟読するうちに何となく大人になったような感じがしたのを憶えています。これをきっかけに、活字の世界やマスコミの業界に憧れを抱くようになり、当時、文学部社会学科にあった新聞学専攻に入学しました。今思えば、あの時の邂逅が私の歩む道を決めたように思います。

**内田** 今日はF.B.I.創部当時の貴重な資料を持ってきました。

**中部** おお、懐かしい!当初のメンバーはいずれも新聞学専攻の学生でし

た。気の合う仲間と「興味や関心の分野が多岐にわたっている学生のためのサークルを創ろう!」と、話し合って結成しました。名称は「Fashionable B-rank Intelligence」の頭文字から取っています(笑)。当時は映画、雑誌、音楽の3部門があり、私は映画部門の初代リーダーを務めていました。今日、持ってきていただいた当時の会員名簿や総会記録、企画書などを見ると、その頃の様々な風景が脳裏によみがえり、仲間の声が聞こえてくるようです。今は、130人の部員がいて、年間約50本の映像作品を手がけていると聞いて驚きました。時を超えて自主映画づくりの情熱が継



卓越した作品を  
企画すれば  
文化に自分の  
足跡を残せる

## 今回の同志社人

### 中部 嘉人 さん 【1984年 文学部社会学科新聞学専攻 卒業】

なかべ・よしひと 長野県出身。1989年に株式会社文藝春秋に入社。経理局、営業局などを経て2014年取締役、2017年常務取締役。2018年に代表取締役社長に就任。

承され、F.B.I. が映画を制作したい学生の受け皿になっていると知って凄く嬉しい。

**内田** 卒業時はどのような分野に進もうとお考えだったのですか。

**中部** 当初は映画業界を目指していましたが、内定を得ることはできませんでした。就職したのは東京の五反田に本社を構える(株)電波新聞社です。社長が同志社大学の先輩でした。ここで編集に携わり、大手の電気機器メーカーなどに赴き、取材をしてインタビュー記事や開発物語などを書いていました。コラムの次は特集、それをこなせるようになったら開発ドキュメントを…といった具合に目標を設定しながらスキルアップを図っていました。

**内田** その仕事を経て(株)文藝春秋に入社されたのですか。

**中部** そうです。(株)電波新聞社に入って6年目を迎えた時、(株)文藝春秋が中途採用の募集をしていることを知り、応募しました。大学受験生の頃から憧れていた出版社ですから面接では「何でもやります!」と必死で粘りました。その影響もあったのか、入社後に配属されたのは経理部門でした。編集の仕事しか経験がなく、自分に適性があるとも思えない。それでも、とにかく会社から与えられた業務をしっかりとやろうと頑張りました。その後、営業部門に移り、デスクワークから一転して人と会うことが中心の仕事になります。当時はバブル景気が最高潮を迎えた頃で、

中途採用の人数も多く、続々と新雑誌が発刊され、出版界は右肩上がりの時代でした。売上目標もノルマもなく、誰もがより良い明日を信じていました。営業の仕事は学びが多く、しかも楽しかった。もちろん、失敗もありました。北海道の資本力のある企業が札幌の郊外に大型書店をオープンされたので、私もできる限りのお手伝いをしました。しかし、実績のない新規店は新刊配本が不足気味になる。これでトラブルが起こったのです。「お客様が多数来店されているのに新刊がまったく足りない。どうなっているのだ!」と社長が激昂され、その日から私は出入禁止になってしまいました。以来、25年ほどお会いできなかったのですが、最近、当社にご挨拶に来られて再会することができました。ほろ苦くも、懐かしい思い出です。

真実を徹底的に追求し  
読者の揺るぎない信頼を得る



**内田** 出版業界の現状をどのように捉えておられますか。

**中部** マーケティングが非常に重要な時代です。優れた書籍を追求するのは当然ですが、それだけでは足りない。話題を創出して認知を促進し、購買へ結実させなければならない。大きなエネルギーを要しますが、その手間暇を惜しむと本は売れません。最近は映像化にも力を注いでいます。私どもの原作本を各社に紹介し、それを映画化していただく。作家と当



社の編集者が作り上げた作品世界を最上のかたちで映像表現してもらうために、当方の意向を製作現場の方々にもきめ細かくお伝えするようにしています。傑作が誕生すれば、それが書籍の拡販にも直結します。映画製作委員会に参画して出資して興行が成功すれば、分配金も入ってきます。また、映画のクレジットに自分の名前が表示されると「大学生の頃に抱いた夢を少しは実現できたのかな…」という気がして感慨深いですね。

**内田** 活字メディアが担うべき役割についてどのようにお考えですか。

**中部** 例えば、その時々での社会的な最新情報を得るといふ点ではデジタルメディアの方が優っています。スマートフォンなどでいつでも確認できるわけですから…。ただし、受け取った速報の背後にあるもの、その情報の持つ意味、それに基づく展望などについては、これからも活字メディアが担うべきものだ確信しています。そのためには真実を徹底的に追究し、読者の信頼を得なければならない。雑誌ジャーナリズムでも、ノンフィクション作品でも、あらゆる角度から検討を重ね、核心をついた情報を提供することが私たちの務めだと考えています。

**内田** 副会長に就任された同志社東京メディアクロージャー会について。

**中部** 先日、宮坂学会長(ヤフー株式

会社取締役会長)にはお会いしましたが、具体的な活動はこれからです。できる限り貢献したいと思っています。例えば、大手の出版社は東京に集中していますが、作家の方々は全国各地におられます。同じように、これからの出版業界に活力を与える人材に関西からも募りたい。そのために、次年度は当社の一次試験を大阪でも実施することにしました。特に後輩である同志社大生には、ぜひ受けていただければと思っています。

### 誰にでも「勝負の時」は訪れる 自分の熱意がその勝敗を分ける

**内田** 同志社での4年間は人生においてどのような時期でしたか。

#### インタビューを終えて



インタビュー  
**内田 明良** さん

【文学部美学芸術学科3年次生】

うちだ・あきら 神奈川県出身。現在、越前俊也教授のゼミで黒澤明監督「乱」をテーマに能を結実させた映画技法を研究。F.B.I.の会長も務めている。卒業後はカメラマンとして映画やCMなどの世界で幅広く活躍したいという。

今日は私の「永遠の記念日」になりました。F.B.I.での自主映画づくりは、大学生活の中で何よりも大切にしていることです。そのサークルを創設された大先輩で、(株)文藝春秋を率いておられる中部嘉人社長にお会いできて心から感動しました。誰にでも「勝負の時」が訪れるという熱い言葉も、心に深く響きました。中部嘉人社長は私の大きな誇りであり、明日への凄いパワーをいただいたと感じています。自分が目指す世界の扉が開くまで、全力を尽くして挑み続けたいと決意を新たにしています。素晴らしい機会を与えていただき、ありがとうございました。

**中部** 当時の流行りの言葉で表現すれば、モラトリアムな日々でした。大好きな映画づくりに打ち込んでいましたが、未来は見えない。いわゆる自分探しの毎日でした。しかし、誰にでも「勝負の時」は訪れます。私の場合は2回ありました。一つ目は(株)文藝春秋の中途採用に応募した時です。勇んで臨みましたが、筆記試験の手応えは最悪でした。それでも最終面接にまで漕ぎ着けることができたので、12、3人の役員の方々に前にして自分の熱意を身振り手振りも交えながら懸命に伝えました。二つ目は社長に就任した時です。今回は会社の命運を託された大勝負であり、舵取りを間違えると取り返しのつかないことになります。覚悟を決めて企業経営に挑んでいます。

**内田** 最後に本学の後輩へのメッセージをお願いします。

**中部** 出版の仕事の醍醐味は自分が立案した企画を具現化すること。作家と共に珠玉の作品を仕上げるのは、自分の子どもを育てるようなものです。その子どもが世に出て受け入れられた時の喜びは何ものにも代えがたい。さらに、ベストセラーになったら、世の中に自身の生きた証を残したことになる。大手ゼネコンの企業広告に「地図に残る仕事」という印象深いコピーがありますが、名著の出版は「文化に足跡を刻む仕事」です。この世界に改めて目を向けていただければと願っています。

# My Job,

私と「仕事」

なか たに ゆう か  
**中谷 結花**さん

[2018年 心理学研究科修了]

医療法人財団 医道会  
稲荷山武田病院 臨床心理士・公認心理師

学生時代からの夢を追い続け、多彩な分野で活躍する卒業生

その姿が学生の皆さんの将来の

## 現場での実践的な学びを積み重ね もっと深く心に寄り添える臨床心理士になりたい

### One day on the job

08:10 出勤



08:20

患者さんの状態を把握するために、必ずカルテチェックから1日が始まります。



10:00

臨床心理士の先輩との情報共有のカンファレンス。医師や看護師とも、毎日行います。



13:00

知能検査や性格検査、認知検査などの心理検査を、患者さんの状態に合わせて実施します。



15:00

患者さんやそのご家族との心理面接を実施しています。

17:00 退勤



OFF TIME

休みの日は、学生時代からの友人と過ごすことが多いです。

臨床心理士の仕事の内容は3つに大別されます。心理査定、心理面接、地域援助です。心理査定は様々な心理テストや観察面接を通じてクライアント（相談依頼者）の現在の心理面の状況を客観的に確認する業務です。心理面接では対話によってクライアントの自己実現をサポートします。地域援助は企業や地域などに赴き、心理面の助言を行い、予防を促すのが目的です。当院には「緩和ケア病棟」と「障害者病棟」の2種類の病棟があり、医師・看護師をはじめとして薬剤師・管理栄養士・臨床心理士などのメディカルスタッフが一体となってチーム医療に取り組んでいます。職員の方々を対象にしたメンタルヘルスも実施しており、これも私の担当です。また、同じ系列の総合病院にも定期的に出向しています。

心理学に目を向けるようになったのは高校時代です。歯科医院でアルバイトをしていた時に、患者さんの身体的な痛みと心理面の不安や苦痛の関係性に関心を抱いたのがきっかけでした。その後、受験生を対象に行われた心理学部の先生の錯視に関する講義も非常に興味深く、心理学部への進学を決めました。講義も演習も充実しており、自分が探究したい研究分野に没頭する日々を送りました。学部の卒論テーマは「脱フュージョン」。

思考などの影響を強く受けている状態をフュージョンと言います。これから脱するためには、思考のありのままを観察し、浮かぶも消えるも自由にします。例えば、それを川面に浮かぶ葉っぱに乗せて流れる場面を思い描くようにします。この時、個々の想像力の差異が効果に影響するのではないかとこのことを考察しました。

稲荷山武田病院には昨年入職しました。志していた仕事に就き、日々やりがいを感じていますが、さらに実践的な学びを積み重ね、もっと深く一人ひとりの心に寄り添える臨床心理士になりたいと思っています。例えば、終末期を迎えられたある患者さんは自身の気持ちについて多く語られることのない方でした。何度対話を試みても気持ちを表出されることはなく、本当に悩みました。でも、ある日、「無理にお話されなくても、傍にいてただけでもできますよ。」とお伝えすると、それまで見られなかった安堵の表情を浮かべられたのです。臨床心理士として何よりも大切なものを実感した瞬間でした。心理職に大きな期待を寄せておられる病院長の姿勢も、日々のモチベーションを保ち、高めるのに役立っています。患者さんが表現できない思いを引き出し、ご家族や医療チームに的確につなげられるような架け橋になりたいと思っています。

# MyLife

第80回

を訪ね仕事に挑む熱い思い、今後の目標などをインタビュー。

キャリア・プランに役立てば幸いです。

うめ がえ しゅん  
**梅枝 駿さん**  
[2014年 商学部卒業]  
セントヨゼフ女子学園  
高等学校・中学校教諭



## 授業では「Why?(なぜ?)」という姿勢を生み出す 課題探究型の学びを最重視しています

両親が共に教員で、叔父や祖父も教壇に立っていました。そのような環境の中で育ったこともあって、高校生の頃には「将来、仕事を選ぶのなら教師かな…」と考えるようになりました。同志社大学を第一志望にしたのは、京都に憧れていたからです。遙かな歴史が映える文化と時代の先端に挑む魁の精神が一体となった世界に魅力を感じ、自分を高めることができると思ったのです。教育学部のある大学も選択肢にありましたが、様々な分野を目指す仲間たちと深く交流し、そこから得た刺激が自身の成長に役立つと判断して決めました。商学部を選択したのは社会系が好きだったからです。教職課程で教員免許を取得しましたが、現場に出る前のある程度の実践力を培い、自分の理想とする教師像を突き詰めるために、京都教育大学大学院連合教職実践研究科に進みました。同志社大学を含む京都の国私立8大学と京都府・京都市教育委員会が連携し、高度な実践的指導力の養成を目的に設置された大学院です。

セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校の所在地は三重県津市です。1959年に高等学校が創立され、2年後に中学校が開校しました。建学の精神は「愛と奉仕の精神に生きる」、スクールモットーは「世の光・地の塩」です。グローバル教育にも力

を注いでいます。3年目を迎えた現在、私は高校1年の「現代社会」、高校3年の「政治・経済」、中学校1年の「地理」を担当しています。授業では大学院の時に追求した課題探究型の学習を最重視しています。「Why?(なぜ?)」という姿勢で課題に取り組み、自分なりの解決案を見出せる人を育みたい。これは本学園の教育指針とも合致するものです。理想通りには行かず、自身の教育力に疑念を抱く時もありますが、先輩教諭の「それで良い!」という助言が心の支えになっています。また、大学時代、ゼミの指導教員である西川純平先生の「光と影」という言葉も支えになっています。ゼミはアジア経済をテーマにしていますが、この「光と影」とは、「なぜ、その国は発展しないのか。影の部分に目を向けなさい」という指摘です。この教えを生かして授業中には見えにくい個々の生徒の「素顔」にも心を配るようにしています。新島襄先生の「我が門をくぐりたるものは…優柔不断にして安逸を貪り、苟も姑息の計を為すが如き軟骨漢には決してならぬこと…」という論しも胸に刻んでいます。後輩の方々には在学中に大好きなことに打ち込み、「これだけは誰にも負けない!」と誇れる世界を築いて欲しい。それが人との出会いにつながり、人間的な魅力を高めようからです。これが私からのメッセージです。

### One day on the job



🕒 08:00 出勤

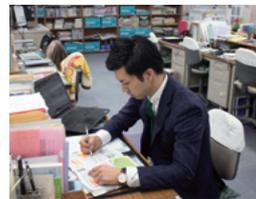
🕒 08:20 朝礼

各クラスへの連絡などを共有します。



🕒 08:55 授業

知識注入型ではなく課題探究型の授業を心がけています。一人の生徒の疑問をみんなで調べることもあります。



🕒 16:30 教材研究

授業をするクラスの生徒をイメージしながら、主に発問や板書計画を立てます。

🕒 18:00 退勤



### OFF TIME

休みの日は趣味の靴磨き。ピカピカの靴でまた月曜日からがんばろうと気合いを入れます。

## COVER INTERVIEW My Purpose 挑戦する人

## 超難関の公認会計士試験に挑み、 2年次生の秋に見事一発合格 2018年度同志社大学育英賞表彰式\*で 奨学生代表挨拶も務めた 目指すのは観察力があり、 賢明で芯の強いスペシャリストである



なとう ゆ さ  
**名東 悠沙さん**  
[商学部3年次生]

公認会計士は医師、弁護士と並ぶ国家資格であり、独占業務の法定監査をはじめ会計・税務・財務に関するコンサルティングも重要な業務である。公認会計士試験に合格するためには一次試験(短答式試験)と二次試験(論文式試験)を突破しなければならない。名東悠沙さんがこの超難関に挑む決意を固めたのは中学3年生の夏である。高校受験を目前にして進路を模索していた時に得た母親の助言がきっかけだった。「選択肢の一つとして資格を取得し、専門家になる道もあると教えられたのです。将来、結婚や出産をしても仕事は生涯続けたいと思っていたので、スペシャリストという選択は魅力的でした。せつかく挑戦するのであれば『三大国家資格』のいずれかだと考え、数字が好きで興味を抱いた公認会計士に狙いを定めました」。同志社高校を志望したのも公認会計士の輩出率が高い同志社大学に進学するためだった。

1日8~10時間という猛勉強を開始したのは、部活を引退した高校3年生の10月だった。大学1年次の8月までは専門学校に通学していたが、以後は通信コースに切り替える。1次試験の約3カ月前である。実はこの頃、答案練習でも点数が取れず、深刻なスランプに陥っていたのだ。「これでは合格できないと落ち込み、やる気のスイッチが切れて、1カ月以上も試験勉強を中断しました。でも、中学3年生の時の初心を思い出し、やり遂げなければ一生後悔することになると考え、直前の2カ月間は一心不乱に毎日13時間も勉強に励みました」。こ

の時、過去の成功体験が心の支えになったという。高校時代のアーチェリー部での経験である。高校3年生の4月までは京都府の大会で予選落ちを繰り返していたが、決して諦めることなく、早朝からの特訓に挑み続けた。その結果、見事に京都府高校総体、近畿大会で個人・団体共に優勝。インターハイ、国体にも出場した。何事も背水の陣で挑めば、内に秘めた思いもよらない大きな力を引き出すことができるという実感が大きく役立ったとふり返る。

「合格したのは2年次生の11月です。本当に嬉しくて涙がとまらなかった。難関を突破できた秘訣は、反復練習によって計算力を鍛え、孤独な状況の中でも心をポジティブに保ち、完璧主義にならないこと。自分を信じて地道に勉強を続ければ、必ず実力は養われます。また、様々な夢を持つ数多くの友人との語りも素晴らしい刺激になり、目標に挑む励みになりました。私の生涯の財産だと思っています」。合格直後に監査法人への就職が内定。その後は、学業に専念し、演習は中小企業研究を専門領域にしている関智宏教授のゼミに所属。国内だけでなく海外の企業も対象にしたフィールドワークを試みている。今年2月に行われた2018年度同志社大学育英賞表彰式では、奨学生代表挨拶も務めた。名東悠沙さんが目指す公認会計士像は観察力があり、賢明で芯の強いスペシャリスト。その思いを実現するために、知識を蓄えるだけでなく、多くの実践的な経験を積み重ねたいと語る。

\*学術、文化活動、地域活動、スポーツ等で卓越した成果をあげ学力優秀な学生に対して、1人につき年額30万円の奨学金を給付し、表彰式において大学長より同志社大学育英賞を授与するもの